

質疑回答一覧表（第二期武蔵野市学校施設整備基本計画中間まとめに関する説明会）

※質問及び回答については、会場での発言をできる限り忠実に再現したものです

会場	質問	回答
3月10日 芸能劇場	60年で建て替えると決めなくてよいのではないか。躯体は100年持つ。改築工事中、仮設校舎で3年間過ごす生徒もいると聞いている。	躯体に関して耐用年数60年という基準はあるが、60年を超過するとすぐに壊れるわけではない。建て替えではなく、延命化している自治体もある。市の公共施設等総合管理計画では、原則60年で建て替える事としているが、建物の健全度調査の結果、延命化することもある。しかし、学校については、すでに大半の学校が築50年を超過しているなか、残り12校の改築には20年以上の時間を要することが想定され、また、耐用年数を80年にするためには、延命化工事が必要になってくることもあり、市では、耐用年数を60年とし、計画的に改築を進めていくこととしている。
3月10日 芸能劇場	学校をきれいにするのも重要だが、子どもの学びを第一にしてほしい。中学校は3校あれば十分ではないか。武蔵野市は財政面は気にする必要はない。中間まとめで示された内容について、教育委員会はどうか考えるか。	本日の説明会は、審議会がまとめた中間まとめに関するものである。将来の生徒数を適正規模で割ると、全市的には3～4校となることは審議会でも確認した。一方で、学校配置のバランスや地域のコミュニティも重要な要素。古くなったからただ建て替えるのではなく、子どもの学びの視点から建て替える。第二中の一部雨漏りしており、生徒とのスクールミーティングでも生徒から困っているとされており、計画は進めていく必要がある。
3月10日 芸能劇場	雨漏りだけであれば、修繕で対応できる。	市では、外壁、防水等の保全部位について、保全工事を実施しているが、改修工事では完全に直しきれないという側面もある。
3月10日 芸能劇場	説明会を何度も開催してくれて感謝している。高校生、小学生の子どもがいるサラリーマンである。今回の第二中、第六中を再編し、統合新校を設置するというのは、正当な考えだと思う。再編により削減できるコストは子どものために使ってほしい。例えば、修学旅行無料や、図書司書の充実など。	中間まとめP.17にもあるように、同様の意見は審議会でも出ている。本日の意見は、審議会委員に伝えていくが、是非パブリックコメントも提出してほしい。
3月10日 芸能劇場	本日の説明会の参加者が少ない。前回は何人だったのか。全市的な話なので、もっと参加しないとおかしい。周知が足りないのではないか。	年明けに実施した第3回審議会までの審議経過説明会の出席者数は、合計77名であった。どうしても平日夜間の時間帯説明会会場に来場するのが難しい方も多いため説明を聞きたい人の都合に合わせて聞いてもらえるように、本日の説明動画は今後、YouTubeにアップする。中間まとめ、リーフレットを配布していく。
3月10日 芸能劇場	適正規模の学級数には特別支援学級は入るか。いろいろな障害を持った児童生徒への対応が重要。第二中、第六中を再編し、統合新校の設置が望ましいとあるが、子どもの声、地域の声を拾っているか。	特別支援学級について、人口推計の実績として記載した。適正規模としては、現段階では特別支援学級には入っていない。中間まとめに対して、現在、子どもたちから意見を取っているが、3月10日朝の時点で900件以上の意見が提出されている。地元の方の声を伺うためには、本日含め3駅圏で説明会を開催する。特に第二中、第六中のある境地域については、3月12日、28日の2回開催し、地域の意見を聞いていきたい。また、学校改築に関し地域の会合で取り上げることがあれば、参加したいと考えている。
3月10日 芸能劇場	パブリックコメントだけでなく、説明会で出た意見をパブリックコメントとして取り扱ってほしい。過去の計画策定の際は、そのような対応もあったと思う。4月から中学校も35人学級となる。第二中、第六中を再編し、統合新校を設置すると、適正規模としている18学級を超えるのではないか。個人的な計算では、2045年までは18学級超の学級数で推移すると考えている。先に第二中を改築するのもありではないか。また、第三中はすぐに生徒数が減ると思うが、どのように改築するのか吉祥寺エリアの方は気になっていると思う。	本日の意見も、記録に残し、ホームページで公開するとともに、審議会にも伝えていく。第二中、第六中を再編し、統合新校を設置すると一時的に18学級を超える可能性はあると思うが、今回の推計によると将来的には生徒数の減少が見込まれており、適正規模に収まると思われる。今回は第二期計画期間中の改築校ということで審議会では第二中・第六中の方策の審議が出ているが、第三中の改築については、第二期で対象とならなくても、第三期計画の中では検討されると思われる。
3月10日 芸能劇場	桜野小の児童数推計が当たらなかったように、生徒数推計もあてにならないと考えている。学校には、普通教室の他にも、特別支援や不登校対応室が必要になる。また、スケルトンインフィルの考え方で、学校以外の用途として使うことは考えているか。避難所としては、1校あたり1200人を想定しているが、第二中、第六中を再編し、統合新校を設置したとき、単純計算で2400人の避難者が対象となるが、とても捌けるとは思えない。避難所運営組織はボランティアであり、行政のサポートが不可欠である。	一時的な児童増に対応するために、多目的室等の他の用途に転用できる部屋を用意している。スケルトンインフィルの考え方で計画するため、学校以外の用途とすることになった場合、一定程度対応できているようにしている。また、避難所としてハード面の配慮は想定していた。おっしゃるようなソフト面についても調整が必要だと考えている。

3月10日	芸能劇場	丁寧に資料が作られていると思うが、再編、統合新校が望ましいとなった理由がよくわからない。50億円削減というのは、何に対してなのか。	子どもの学びを第一に審議を進めてきた。第5回審議会では、審議委員である小中学校校長から、学習指導要領では、児童生徒同士、児童生徒と教員だけでなく、地域も含めた多様な関わりが重要とされているが、12学級以上18学級以下の適正規模の学校であると、対応がしやすい。再編することで、削減できる見込みの50億円については、第二中、第六中を単独で建て替える場合と、第二中、第六中を再編し、統合新校を設置する場合の差額である。この金額の内訳は、改築費用、仮設校舎リース費用である。
3月10日	芸能劇場	説明会を1回増やすという話があったが、長期計画のように説明会のオンライン開催はできないのか。 市内の特別支援学級の数は可視化されたが、都立の特別支援学校に通っている児童生徒も環境を整えば地域の通常学級に通う可能性があるが、記載がない。	オンラインの説明会を開催しても時間帯によって参加できない人はいる。説明会動画をアップするほうが多くの方が見ることができると考えており、動画を見た上で、パブリックコメントを提出してほしい。都立特別支援学校、特別支援学級について、それぞれ適した子どもがおり、子どもの育ちを優先する必要がある。そのため、ただちに地域の通常学級に転籍する想定は難しい。審議会には意見として伝えていく。
3月10日	芸能劇場	会長からの申し送り事項に義務教育学校は挙げられているが、小規模校存続が挙げられていないことが気になる。小規模校に通っている児童生徒、その保護者の声を聞くことが重要だと思う。	ご意見として承る。義務教育学校設置が申し送り事項に挙げられているのは、市として過去の検討の中で、設置しないという結論が出ており、設置について検討する場合には長期計画で議論する必要があるからである。
3月10日	芸能劇場	一定規模以上の学級数であるべきだと思う。どのような授業が受けられるかが、子どもにとって重要である。規模が大きい場合に実施できる具体的な教育内容について教えてほしい。	以下のような教育内容が考えられる。 ・総合的な学習の時間において、より多くの異なるテーマの講座を同時開設して探究活動を行うことができる。 ・習熟度別・関心別の少人数学級の展開を行うときに、柔軟なコース分けや多層階の編成を行うことができる。 ・多様な価値観に触れる機会の増加や、同じ価値観の仲間を見つける機会の増加が期待できる。
3月12日	スイングホール	学級数12以上18以下が適正規模とあるが、1クラスの人数は何人で想定しているか。	35人学級で想定している。(小学校はすでに35人学級になっている。中学校についても令和8年度の1年生から35人学級に変更になる予定)
3月12日	スイングホール	第二中、第六中の生徒数推計はどうなるのか。	中間まとめP.10に掲載されている生徒数推計グラフにあるとおり、第二中の生徒数は今年度と比較して、20年後の令和27年度には3～4割減少する見込みとなっている。第六中の生徒数は今年度と比較して、令和27年度には2～3割増加する見込みとなっている。なお、今年度実施した人口推計で小学校の児童生徒数推計も算定している。中学校全体としては、数年後にピークを迎え、その後減る見込みとなっている。小学校全体としては、すでに減少傾向が見られる。
3月12日	スイングホール	境北小と桜堤小を統合し、桜野小を新設したが、当時の児童推計値は実態と乖離はなかったか。	過去に実施した推計と実態に乖離がなかったとは言えない。なお、今年度実施した児童生徒数推計は、直近の人口動態を基に推計している。
3月12日	スイングホール	第二中、第六中を再編し、統合新校を設置するという方針が示されているが、統合新校を設置する敷地はどこを想定しているのか。ちなみに、旧桜堤小敷地はスポーツ公園とする案があったと思うが、廃案になったのか。	統合新校の設置場所については、審議会の中で第二中及び北側の旧桜堤小の敷地の活用があげられている。現在、審議会で審議されているところである。今後令和8年12月に審議会からの答申を受け、令和9年3月に教育委員会として計画を決定する予定である。
3月12日	スイングホール	第二中、第六中を再編し、統合新校を設置するとあるが、この場合の事業スケジュールを教えてください。また、学校施設の建て替えは60年を目安に建て替えるとあるが、60年の目安は何か。建て替えではなく、耐震改修等で延命化することはできないのか。	中間まとめP.12の図表14にあるように、1校あたり5年程かかる。60年というのは、鉄筋コンクリート造の建物の躯体の耐用年数を示しているが、60年を超過するとすぐに問題が生じるわけではない。建物の健全度を調査し、躯体に問題がなければ、延命化するという選択肢もある。耐用年数60年については、市の公共施設等総合管理計画で定められている。学校については、今後12校を改築する必要があり、全てを改築するには20年以上かかる。大半の学校はすでに築50年経っており、全て改築が終わる頃には、築70年を超えてくるため、計画的に改築を進めていく必要がある。
3月12日	スイングホール	改築に要する期間については理解した。統合新校の改築がいつから始まるかを教えてください。改築事業が始まったのは、耐震化がきっかけか。	令和8年度中に第二期計画を策定する予定であるが、令和9年度から統合新校の基本計画に着手すると、令和15年頃に改築が完了する見込みである。改築の順番については、築年数に加え、躯体の健全度や、仮設校舎を複数校で利用するなど、総合的に順番を決めている。
3月12日	スイングホール	統合新校完成後、第六中の敷地が空くことになるが、跡地利用についてどのように考えているか。市民の意見を聞きながら進めてほしい。	第六中跡地については、来年度の審議会の中で審議される見込みである。市民の意見を聞きながら検討を進めていく。

3月12日	スイングホール	第二中、第六中を再編し、統合新校を設置すると、中学校の学校数を減らすということになり、体育館や校庭の数も減ることになる。施設の利用団体の活動場所が減ることにもなる。現在工事を実施している再編を伴わない改築工事でも、活動場所がなくなり、残った施設を取り合う事態が起こっている。地域との連携についてどのように考えているのか。	審議会に意見を伝えていく。なお、他の自治体の事例では、残った体育館や校舎を地域で使っている事例もある。
3月12日	スイングホール	第六中の開かれた学校づくり協議会委員である。本日の説明会の参加者を見ると、境地域の人が多く、第二中、第六中再編について注目されていることがわかる。第二中、第六中を再編し、統合新校を設置することが中間まとめに記載されているが、なぜ他の学校ではなく、第二中、第六中が検討されているのか。他の学校について、検討していないのか。また、審議会でも小規模のまま存続してほしいという意見もあったが、私も含め地域は同じように考えている。境地域にとって第六中の存在は大きい。再編し、統合新校を設置すると第六中がなくなることに違いない。子どもたちが将来的に地域に帰ってきてほしいと考えて開かれた学校づくり協議会委員の活動をしてる。第二中、第六中地域、学校が改築される時期に学校に通うことになる世代の保護者にはしっかり説明してほしい。中間まとめについて知らない人も少なくない。	開かれた学校づくり協議会委員含め、地域で活動されている方にはまずお礼を申し上げたい。子どもの学びを第一に、全市的な視点から中学校の適正な数や、未来の教育を見据えた校舎のあり方について検討することを教育委員会から審議会に諮問している。諮問内容に基づき、全市的な観点で、これからの学校の適正規模について審議された。生徒数推計を適正規模（12学級以上18学級以下）で割ると、中学校の数は3～4校となる。第二期計画の対象期間中に改築を予定している第二中、第六中が将来的に適正規模を下回る見込みがあるため、改築するうえでの方策について審議され、中間まとめがまとめられた。市としても、第二中、第六中地域への説明が必要だと考えている。審議会会長からも中間まとめP.18記載のとおり、申し送りがあった。今後地域に説明をしていきたいと考えている。
3月12日	スイングホール	中間まとめ、パブリックコメントを受け検討していくということであるが、中間まとめの内容は決定事項ではないという理解でよいか。地域への説明も理解を求めめるために行うのではなく、地域の意見により、方針が変わる可能性があるということか。	中間まとめは、審議会としてこれまでの全5回の審議結果をまとめたものである。来年度の5回の審議会後に教育委員会へ答申が出される。その後、答申を基に教育委員会として計画を決定していくことになる予定である。
3月12日	スイングホール	中間まとめP.10に「特別支援学級については、支援を必要とする児童・生徒の実態や学習指導要領等の変更に応じて柔軟に対応するために、推計値とは別に検討を行っている。」とあるが、具体的に教えてほしい。第六中のこぶし教室（特別支援教室）に通う生徒は、第二中と再編することで遠くなり、さらに遠のくのではないか。	特別支援学級に通うお子さんというのは、お子さんとの面談、保護者との面談の結果、決まるもののため、単純に推計を出せない性格のものである。特別支援教室に通う子どものものについて、現在第二中から第六中までアウトリーチ型で指導に来ている。発達課題で学校に足が遠く生徒がいることは理解している。通学については検討課題の一つになるものとする。 不登校の子どもへの対応として、第五中には来年度チャレンジクラスが設置される。昇降口を通らずに部屋まで行くことも、昇降口から友達と一緒に行くこともできるようにしていく。
3月12日	スイングホール	第二中、第六中を再編し、統合新校を設置することが、まだ決定していないということで安心した。第六中の敷地が狭いという話もあるが、第六中南東部のプレーパークの敷地を学校敷地にできると良いと思う。	ご意見として承る。
3月12日	スイングホール	第二中、第六中再編の話は以前もあった。第二中、第六中再編白紙を市長選で公約としていた小美濃市長が当選し、安堵していた。なぜまた同じ話がでているのか。また、小中一貫校設置の議論はなくなったのか。	第六期長期計画・調整計画では、「第二中と第六中との統合の可否を検討」としていたが、小美濃市長就任後、第六期長期計画・第二次調整計画で「子どもの学びを第一に、全市的な視点から中学校の適正な数や未来の教育を見据えた校舎のあり方について検討」と記載され、第二期学校施設整備基本基本計画策定審議会への諮問事項にもなっている。諮問事項に基づき、全市的な観点で、これからの学校の適正規模について審議している。生徒数推計を適正規模（12学級以上18学級以下）で割ると、中学校の数は3～4校となる。第二期計画の対象期間中に改築を予定している第二中、第六中が将来的に適正規模を下回る見込みがあるため、改築するうえでの方策について審議され、中間まとめがまとめられた。 義務教育学校（施設一体型小中一貫校）については、中間まとめP.30にあるように以前検討し、実施しないということが決まった経過がある。しかし、第二期学校施設整備基本計画策定審議会の中では、義務教育学校（施設一体型小中一貫校）の設置についても可能性の一つとして審議されてきた。中間まとめP.15～18にも案の1つとして提案があったことが記載されている。また、中間まとめP.18、会長からの申し送り事項にも、義務教育学校（施設一体型小中一貫校）の設置について意見が出たことを、第七期長期計画の策定の際に、報告することが記載されている。

3月15日	商工会館	中間まとめP.14に小中学校の適正規模があるが、小学校について、再編の検討はしているのか。他自治体のような小中一貫校の検討はしないのか。中間まとめP.6の「持続可能性を支える柔軟なプラットフォーム」とは具体的に何を指すのか。	中間まとめP.26に記載の教育委員会から審議会への諮問文の中で、子どもの学びを第一に、全市的な視点から「中学校の適正な数」を検討とあり、適正な数の検討について、小学校は対象外としている。対象外としている理由としては、小学校学区は青少協等地域コミュニティとの結びつきが大きいことが理由である。 義務教育学校（施設一体型小中一貫校）設置の検討については、中間まとめP.30にあるように、過去に検討しているが、全校を小中一貫校にすることについて、実施しないという結論が出ている。小中一貫校設置について、第二中、第六中を改築するうえでの方策として今回の審議会でも意見が出ており、次の長期計画策定の際に報告することが、審議会会長からの申し送り事項になっている。他の自治体で小中一貫校とした事例では、成果もあれば課題も出ている状況である。 持続可能性については、活用し続けるという視点、今後学習指導要領が変わり、求められる教育活動の変化に対応できるハード面の整備等の視点がある。
3月15日	商工会館	中間まとめP.18の義務教育学校設置のデメリットとして、小学生の活躍の場が少なくなるとあるが、具体的に教えてほしい。	通常の小学校の場合、小学校5、6年になると、上級生としてイベントの開催などで下級生を引っ張る意識が芽生える。一方で、9年間の学びを一貫して行う義務教育学校の場合、5、6年生の上に中学生にあたる7～9年生がいるため、下級生を引っ張る意識が薄くなることもある。
3月15日	商工会館	学校敷地の隣地である住宅との境界について、どのように考えているのか。	学校ごとに、隣地との境界の状況は異なりますが、実際、隣地との境界について、境界確定をしている箇所としていない箇所が存在する。これまで改築事業を進めてきた第一中、第五中、第五小、井之頭小では、境界確定をしていない箇所については、学校と隣地との境界を明確にするため、境界確定を進めている。そのうえで、万年堀等の古い堀については、隣地の所有者と協議しながら安全性の高いフェンス等に造り替えている。
3月15日	商工会館	小学校と中学校の適正規模を同一で考えてよいのか。中学校で12学級の場合、1学年4学級であるが、小規模ではないと思う。1学級当たりの人数は35人を前提としているのか。あるいはもっと少人数を前提としているのか。現状の第二中、第六中の教員の数と、再編した場合の教員の数について、試算できていれば教えてほしい。建設費が高騰しているため、再編による財政的なメリットはあると思うが、教育面でのメリットがどれほどあるのか疑問である。中間まとめの内容が固まっていないというのであれば、再編、義務教育学校、小規模存続を併記するべきだったと思う。	1学級あたりの定員については、国の方針のとおり35人で算定している。他国の事例を視察し、35人よりも少ない事例も見てきた。市内の中学校で、3教科の常勤教員が配置できず、講師を配置している事例がある。特に技術の教員については、東京都全体で不足しており、18学級を超える規模の学校でも配置できない場合もある状況である。審議会委員の大学教授、小中学校校長からは、教員が不足しており、指導体制の確保が難しいということについて、共通で課題とされていた。いただいた意見は、審議会に伝えていく。 ・令和7年度の教員数について（説明会后確認。加包含む） 第二中…29名、第六中…17名 統合新校についての教員数は現時点での試算していないが、通常18学級の学校の場合は35人程度。教員の定数は東京都教育委員会が決定している。
3月15日	商工会館	現時点では、審議会による中間まとめということであるが、計画が決定するまでのスケジュールについて教えてほしい。	中間まとめ28ページに記載のとおり、来年度第6回から第10回の全5回の審議会の開催を予定している。10月の第9回審議会後に審議会から計画案が出され、パブリックコメントを実施する。12月の第10回審議会にて審議会から答申を受ける。その後、教育委員会において協議を行い、令和9年3月を目途に計画を決定する予定である。

3月28日	スイングホール	<p>中間まとめP.10の生徒数推計をみると、第六中は増え、第三中は減る見込みとなっている。第二中、第六中については、再編について検討されているにもかかわらず、第三中は検討されていない理由を教えてください。現行の計画において、第三中を含む第2グループの改築順を第二期計画策定時に決めることになっているので、第三中について議論しないのはおかしい。</p> <p>第二中、第六中を再編し、統合新校を設置する場合、生徒数は600人を超えると思う。大規模校である桜野小に子どもを通わせた保護者の立場からすると避けるべきと考える。「市立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年）」の改訂にあたり、文部科学省が設置している調査研究協力者会議では、「統廃合のスケジュールを検討する際に学校施設の老朽化の程度や学校改修のタイミングは重要な観点となる。この際、当初予定していた学校施設改修のタイミングにあわせることだけを狙いとして短期間で学校適正規模・適正配置の検討を行うことは本末転倒であり、望ましいものではない」されている。</p>	<p>学校施設整備基本計画は、2020年から2043年の24年間で3期に分けており、第二期計画は二期目である。改築順は築年数を原則に躯体の健全度も考慮し、順番を決めている。第三中については、第二期計画期間中に建替えない場合、第三期計画の策定の際に検討されると思う。第二中、第六中を再編し、統合新校を設置する場合、設置直後は今回の児童生徒数推計によると、18学級を超える見込みだが、その後適正規模（12学級以上18学級以下）に収まる見込みである。</p>
3月28日	スイングホール	<p>小中学校の適正規模（12学級以上18学級以下）は子どもの学びを第一に決めているとのことだが、根拠は何か。今後、生徒数が少なくなり、空き教室が出る際に、他の公共施設を複合化することは考えられるのか。また、20年先を見据えてとあるが、1学級あたりの定員が35人のまま続いているのか疑問である。中間まとめP.26の諮問文に「全市的な視点から」検討するとあるのに、なぜ第二中、第六中に限定しているのか。桜野小の人数が当初の想定よりも多くなったことについて、審議会ではどのように捉えているのか。</p>	<p>小中学校の適正規模について、指導体制の観点では、12学級以上18学級以下だと全教科に教員を配置できることが利点である。1学級あたりの定員について、35人よりも少なくしている国はある。教員としては、1学級あたりの人数は少ないほうが対応しやすい。しかし、現状で35人を下回る方針が国から出されていないため、事務局としては、1学級あたりの定員は35人で想定している。複合化について、令和8年度の審議会で審議する予定である。桜野小の児童数が当初想定よりも増えたことについて、審議会で話題になったことはなかった。「小中学校の適正規模」の基準は全市的な視点で検討し、全小中学校に適用される基準である。第二中、第六中に限定している理由としては、第二期計画の計画期間中に改築を予定している中学校であるためである。</p>
3月28日	スイングホール	<p>過去に第四小、第四中に子どもを通わせた保護者である。第二中、第六中に通わせていないので、当事者性は薄いが発言させてほしい。第二中、第六中再編について、予算や子ども人数等の観点はあると思うが、地域の文化として、学校が地域にそのままあることによる安心感はかけがえのないものである。特に武蔵野市は財政的に恵まれている。</p>	<p>ご意見として承る。</p>
3月28日	スイングホール	<p>中間まとめP.10の生徒数推計によると、第六中は20年後でも生徒数が増える見込みであるにもかかわらず、なぜ再編の話が出ているのか。学校は地域毎にあるべきである。子ども等の当事者が残してほしいと考えている。地方などの過疎地であれば、再編という選択肢は理解できるが、武蔵野市ではどうか。今後、1学級あたりの定員が減った場合、結果として学級数が増え、教室が不足することになると対応ができなくなると思う。</p>	<p>ご意見として承る。</p>
3月28日	スイングホール	<p>第二中、第六中が再編し、第二中敷地及び旧桜堤小敷地に統合新校が設置された場合の第六中の跡地利用についてどのように考えているのか。現状では、当該地域への説明が足りていない。第五中では保護者会で改築校のビデオが流されていた。より丁寧な説明が必要だと思う。学校は文化の一つであり、第六中がなくなると子どもを感じる場面が少なくなる。地域で子どもを育てるといふ視点、学校、地域への愛着を育むという視点が重要である。</p>	<p>第六中跡地利用については、第二中、第六中を再編し、統合新校を設置することが現時点で決まっていなかったため、具体的にはまだ審議されていない。第五中改築に関するビデオ配信については、基本設計が始まり、具体的なコンセプト等の検討が始まった段階であると思う。第二期計画については、第二中、第六中改築の方策を検討している段階である。学校周辺の方から騒音について苦情が出ることもあり、運動会を開催できていない学校もある。小規模存続する際には、教員不足によるフォローを地域の方をお願いする必要が生じると思う。これまでの審議会での経過はリーフレットを作成し、小学校、中学校、保育園、幼稚園の保護者に配布してきた。中間まとめについては、今回（3月10日、12日、15日、28日）の説明会から始めている。中間まとめP.17、18にあるように、教員の指導体制確保が論点になっていた。第六中は現在7学級だが、3教科で正規教員が配置できておらず、講師を配置している状況。正規教員の配置について、学級数をベースに決まる。正規教員が配置されないと、配置されている正規教員の負担が増える。講師探しは学校がするが、教員不足が叫ばれる現在は、かなり苦労している。審議会には、市内小中学校の校長にも入ってもらい、教育面についても審議してもらっている。</p>
3月28日	スイングホール	<p>現計画を変えるからにはしっかり議論をしてほしい。改築順の検討にあたり、全小中学校の現時点の劣化度を考慮すべき。子どもの人数で決まるものではない。</p>	<p>ご意見として承る。</p>

3月28日	スイングホール	市内小学校で事務職員をしている。第二中、第六中が再編し、統合新校を設置した場合、避難所としての程度の備蓄量を想定しているか。統合新校で受け入れられない場合、第五中に行くなどのシミュレーションはしているか。過去に第六中で働いていたが、第六中は校庭が狭く、徒競走のスペースが取れないため、陸上競技場で体育祭を開催していると理解している。また、昭和40年台に子供が増えたことで第六中が設置されたと思っている。講師については、ベテランの元教員の方が入っているため、生徒達は恵まれていると思う。第六中の跡地利用について、武蔵野市第六期長期・調整計画策定に伴い議会の際に、第二小、第六中の改築が難しいことが説明されていたと思う。今回の審議会でも議論されるべきだと思う。	防災に関する観点は重要であり、地域の防災に詳しい方に審議会委員に入ってもらっている。体育祭の会場について、徒競走の観点もあると思うが、近隣住民からの騒音に対する苦情もある。ベテランの方に講師をしてもらっているのは、学校が苦勞して探した結果である。一方で、学習指導要領の変化に伴い、ベテランの元教員では対応できないこともある。第六期長期計画・第二次調整計画策定の際に、第六中の跡地利用も含め白紙になっている。審議会でも第二中、第六中を再編し、統合新校を設置した場合に防災拠点になり得るメリットについて議論があった。また、第六中改築の際は、隣接するプレーパークを学校敷地に含め、改築を進めるべきという意見もあった。
3月28日	スイングホール	3月の市議会で、第二中、第六中再編への反対意見を、心理的な抵抗感につながるミスリードがされている印象を受けた。審議会委員に地域防災、学校避難所運営組織をされている方がいると思う。私も1000戸ほどの共同住宅の運営組織の経験がある。中間まとめP.17には、「第二中学校周辺は坂道も多く、車いす利用者が避難しづらいが、旧桜堤小学校敷地も含め改築すると解消される」とあるが、防災面のメリットとして再編とする理由としては弱いと思う。防災拠点は、受け入れられるキャパシティではなく、地域からの距離が重要である考える。仮に第二中、第六中を再編した場合、第六中学校エリアの住民の避難所が遠くなるが、なぜ審議会でのこの観点について議論されないのか。学校避難所は市の地域防災計画でも重要な位置づけのはずである。また、私は西部コミセンの運営協議会委員であるが、市役所から第二小、第六中と連携するよういわれているのに、市役所からの西部コミセンに対する説明が全くされてこなかった。防災面について、教育部内だけで検討してよいのか。	防災を所管する防災課に対し、事務局から審議会の経過を共有している。これからも連携したいと考えている。ご意見として承わる。
3月28日	スイングホール	1月に開催された説明会の質疑回答集について、意図が誤って記録されているので訂正したい。20年、30年先の教育を考えるにあたり重要な視点だと思う。 【訂正前】 現在学習指導要領の改定中だが、特別支援学級ワーキンググループでは、特別支援学級の改革を進める方向性になっている。 【訂正後】 現在学習指導要領の改定中だが、特別支援教育ワーキンググループでは、通常学級における包摂性について議論がされている。	修正する。
3月28日	スイングホール	不登校、自殺者が増えていることがニュースになっているが、本市の特別支援学級についての取り組みについて教えてほしい。また、他自治体（杉並区）で不登校児への対応が放置された事例があるが、どのように考えるか。	これまでもチャレンジルーム、クレスコーレ等の取り組みを行ってきた。課題として、大きく2点あると考えている。1点目は家を出ることができないが社会とつながりたい子どもへの対応。2点目はチャレンジルーム、クレスコーレには通えているが、通常の授業を受けられていないため、学力不安から教室に入れない子どもへの対応。昨年度、バーチャルラーニングプラットフォームという、不登校の子どもだけが入れるオンライン上の学校をつくり、アバターによるオンライン登校ができるシステムを試行した。また、令和8年度から学力不安の子ども向けに、チャレンジクラスを第五中学校舎内に設置する。通常学級よりも教育課程をゆるくし、授業数も2/3程度に減らしている。 自殺防止については、教育委員会としても重い問題と受け止めており、令和7年度から命の安全教育を徹底している。令和8年度からは教育課程に位置づける。ご指摘の自治体の事例は繰り返してはいけないと思っている。いじめ防止基本方針を、4月上旬に市ホームページにて公開する。今後、各学校にも繰り返し周知していく。

3月28日	スイングホール	地域としては、小規模のままで存続させてほしい。子どもたちの中でも話題になっている。第二中、第六中の学区を変えて、両校の生徒数を調整することは審議されていないのか。第二中、第六中が再編された場合、災害時には第二小に避難者が殺到するのではないか。また、地域に学校があるということはまちづくりとして重要である。第二中、第六中が再編した場合、日赤病院周辺の子どもは徒歩で40～50分かかる。地域で子どもをみるにも限界がある。	ご意見として承る。
3月28日	スイングホール	小中学校の1学級当たりの定員について、小学校35人以下、中学校40人以下と法律で決まっているが、市独自で定めることができるはずである。もしできないのであれば、国に法律を変えるよう働きかけることはできないのか。審議会の市民委員には第二中、第六中再編に反対の意見もあった。また、境南コミセンの「きょうなんだより令和8年3月15日号」に市民と市長の語る会の記録があり、市長は「第二中と第六中の統合中止の経緯」と話している。また、令和5年12月の市長選では、「第二中、第六中の統合は白紙に」を公約としていた。市長の考えと審議会の動きと矛盾していると思う。	東京都教育委員会は中学校の1学級あたりの定員35人とする方針であり、学級数に応じて教員数が決まる。1学級あたりの定員を35人未満とすると、都の基準とは異なるため、不足する教員については、市で独自に採用、配置する必要が生じる。他区で35人未満とした例があるが、区で採用した教員は都採用の教員ではないため、都教育委員会が採用する教員になるためには、別途採用試験を受ける必要が生じ、問題になった。定員を下げることについて、本市も含めた教育長会から要望書を出し続けている。現在第二期計画について審議している経過については、小美濃市長当選後、第六期長期計画・第二次調整計画の審議の中で、全学的な視点から中学校の適正な数について検討することとなった。令和6年度には、第六期長期計画・第二次調整計画の策定と並行して、全学的な観点から、全中学校を会場に地域、保護者、教職員によるワークショップを開催したり、中学校生徒との意見交換、PTA会長と教育委員会のワークショップを開催した。その後、令和7年度に審議会を設置し、審議を重ねてきた。来年度も5回の審議会を予定している。
3月28日	スイングホール	第二中、第六中再編への反対意見について、心理的な抵抗感という言葉で片付けられては困る。一度再編すると元には戻せない。自分の子どもたちは小中学校の先生には助けてもらったと思っている。大野田小が地域の拠点として、複合施設になっていることは素晴らしい。地域のために、学校は残すべき。財政的に恵まれている自治体が再編を選択することの社会的な影響力を考えてほしい。	ご意見として承る。
3月28日	スイングホール	第二中、第六中を再編し、統合新校を設置する理由として、子どもの学びを第一にとあるが、財政面、教員確保の観点が大い印象を受ける。子供の学びが置き去りにされている。人数が多いこと、少ないことのメリット、デメリットは一概には言えない。子どもの学びを第一にして再編するのは、子供へのメッセージとして良くないと思う。	ご意見として承る。
3月28日	スイングホール	中間まとめP.26の諮問文にある、「未来における教育を見据える」の意図するところを教えてください。学校規模を考えるにあたり、なぜ人数ではなく、学級数で検討しているのか。	「未来における教育を見据える」という文言については、どのような校舎が将来的に必要なかということを示している。なぜ学級数で学校の規模を検討しているのかについては、学校の教室の数に関するからである。改築の順番については、築50年を超える学校が多くなっている中で、計画的に改築をするために、築年数と建物の健全度から検討していく。